

警視庁就職を機に上京し、早10年、在職中は夏休みぐらいいしか帰省する機会がありませんでしたが退職後は子供を連れて年に2回は帰省するようになりました。主人も警察官なので、たまたま長期の研修や、地方派遣があり長い帰省をしたこともあります。下の子は長門での思い出がよほど楽しかったらしく、写真やビデオを見るたび、「じいちゃん、行く。」と泣き出します。

私が子供の頃は、近くの川で魚を捕ったり、レンゲ畑で花を摘んだりと自然の中で遊ぶ環境には恵まれていました。それに比べ子供達は自然に触れる機会も少なく、間もなく通うことになる赤坂小学校においては屋上にアスファルトの運動場があったり、プールも室

内の温水と、小学校時代を半袖裸足で過ごした私には信じ難く子供達がかわいそうな気がします。

ですから帰れるうちはできるだけ子供達を長門に連れて帰ってやりたいと思うのです。

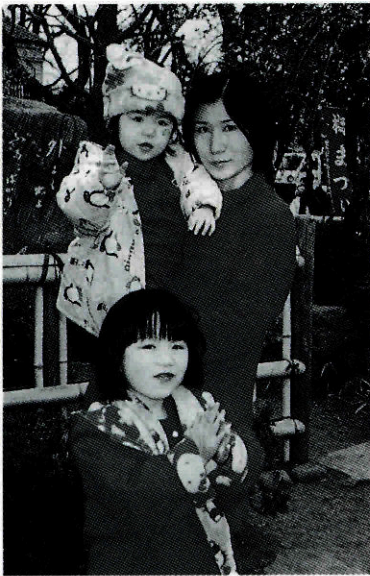
3月には「ルネッサながと」が完成すること。帰省の楽しみがまた一つ増えました。



▲七五三のときの写真です

長門の自然を子供達に

—ふるさとながと・こんにちわ—

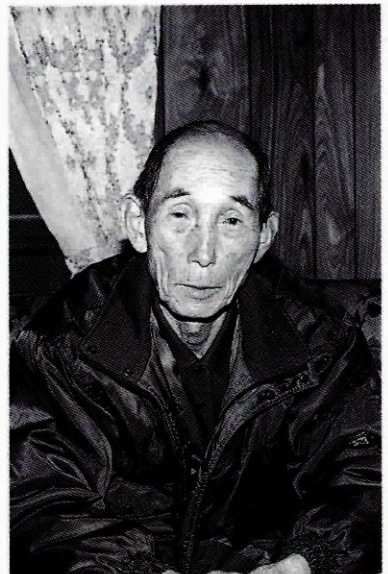


河村 綾子 さん

かわむらあやこ／昭和45年生／東京都港区在住／鳥越1区出身／主婦

花栽培が楽しみ

—達者です—



宮本 秀一 さん

みやもとひでいち／83歳／青海区

「現在、妻・長男夫婦・孫2人の6人家族です。長男夫婦は勤めていますので、田(7反)ハウス(花栽培)4棟は、私が管理しています。朝5時に起床し朝食前にハウスの見回り、夕方日が落ちる前にハウスのビニールを閉めて回るのが日課です。よく野犬や猪などが、ビニールなど破りハウスを荒らすことがあります。今年はそうした被害はありませんが、この前の大雪で、ハウスが1棟つぶれました。結構たいへんです。今、ストック、フリージアを農協に出荷しています。時期には、菊、ユリなど年間通して栽培し、時には小郡や北九州方面に出荷することもあります。」と宮本さん。

趣味については、「最近物忘れ

がひどいので、週2回図書館で本を借りて読むことです。特に戦争物が好きです。」とのこと。健康の秘訣は「車に乗ることを控えて、もっぱら歩き、点状にしているハウスも歩いて見回っています。それと、妻が腰が悪いので一緒に2、3日置きに近くの温泉に通っています。」と元気に語っておられました。



▲ビニールハウスを見回る宮本さん